判定結果一覧表の見方

●･･･判定フローにより判定結果の根拠となっているもの
⇒･･･次の評価へ移るもの
ア･･･老朽化している又は耐震性がないため、類型別判定で判定するもの
イ･･･老朽化はそれほど進行していないが、利用が少ない又は公費負担が大きいため、類型別判定で判定するもの

施設類型	施設名	実施基準															実施基準判定結果（最終判定）
		一次評価					二次評価			三次評価							
		計画性	合理性		必然性		安全性			必要性		効率性					
		計画・方針	管理主体	利用と管理	民間等代替施設	Ⅰ 一次評価結果	資産老朽化比率	耐震性	Ⅱ 二次評価結果	利用率	稼働率	公費負担額	1㎡あたり公費負担額	利用者1人あたり公費負担額	Ⅲ 三次評価結果	Ⅳ 類型別判定等（ア、イの内容）	
集会施設	A施設		●	●		譲与			－						－	－	譲与
文化施設	B施設					⇒	●		ア	●					－	利用率や稼働率が低い施設は廃止	廃止
博物館等	C施設					⇒			⇒			●			イ	公費負担が大きい施設は受益者負担の適正化、経費節減等によりコスト削減	コスト削減

・上記表における A～C 施設（架空の施設）を例にしながら、一覧表の見方について説明します。
・実施基準による判定は「一次評価」「二次評価」「三次評価」「類型別判定」の流れで行います。

Ⅰ）一次評価（計画性、合理性、必然性）

・A 施設は、合理性の「管理主体」「利用と管理」という評価指標で判定ラインにかかるため、一次評価で「譲与」という判定が出ています。
・B、C 施設は、該当するものがないため、そのまま二次評価に移ります。

Ⅱ）二次評価（安全性）

・B 施設は、「資産老朽化比率」という評価指標で判定ラインにかかるため、「ア」という評価結果が出ています。老朽化が進行している又は耐震性がない「ア」の施設については、「類型別判定」で最終的に判定を行います。
・C 施設は、該当するものがないため、そのまま三次評価に移ります。

Ⅲ）三次評価（必要性、効率性）

・C 施設は、「公費負担額」という評価指標で判定ラインにかかるため、「イ」という評価結果が出ています。老朽化はそれほど進行していないが、利用が少ない又は公費負担が大きい「イ」の施設については、「類型別判定」で最終的に判定を行います。

Ⅳ）類型別判定

・類型別判定は、類型毎の特性分析、人口減少分析、GIS（地理情報システム）による配置分析、市民アンケート分析の結果に基づき、類型毎に設定しています。
・B 施設は老朽化が進行しており、利用率が低いため、「廃止」という判定が出ています。
・C 施設は公費負担が大きいため、受益者負担の適正化、経費節減等により「コスト削減」という判定が出ています。

評価指標や判定ラインの内容など、実施基準についての詳細は、「再編計画第 3 章」をご覧ください。